



# 結城農業かわら版



第137号

令和3年10月20日

発行元：結城地域農業改良普及センター

TEL：0296-48-0184

FAX：0296-48-2682



## あなたの家にも**赤米**が混入していませんか？ ～今から出来る雑草イネ対策～

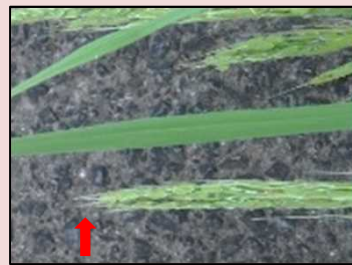


収穫して籾摺りをしてみたら・・・「あれっ！？赤米が混じっている」こんなことはありませんか？もしかしたら雑草イネかもしれません。雑草イネは同じイネでも雑草性が強く、脱粒しやすい特徴があるため、収穫する頃には既に脱粒して、翌年には何倍もの発生になってしまう恐れがあります。そこで、今回は水稻収穫後からできる雑草イネ対策を紹介します！

### 圃場での見分け方



出穂が早く・ふ先（籾の先端）が着色



芒が長い



脱粒性が高い

## 雑草イネ防除のポイント

9～10月

収穫

- ・雑草イネが確認された水稻収穫後の圃場では、**秋耕しない**。（冬場の低温や鳥類の食作用で越冬種子量を減らすため）。
- ・春先の**耕起前に非選択性除草剤**で雑草イネを枯殺後、耕起。

4～5月

耕起

5月下旬

代かき

- ・移植は5月中～下旬に行い、移植までに発芽した**雑草イネの種子**は代かきにより埋没（回数は荒代・本代の2回）。
- ・移植後は条間の**手取り除草**を徹底。

5月下旬～  
6月上旬

移植

### 【除草剤の使い方】

- ・雑草イネに効果が確認されている**薬剤**を使用
- ・**初期剤・初中期一発剤・中期剤**の3回が目安。
- ・5月中旬移植は3回、5月下旬移植は2回を目安に散布。
- ・7～10日間隔で1か月間防除を続ける。

7月下旬～  
8月中旬

出穂期

9月中旬～

収穫

- ・出穂後12日頃から雑草イネ種子は発芽能力を持つので、**出穂後10日以内に手取り除草**を実施。
- ・抜き取り株は畦畔際に放置せず、持ち出して焼却処分。

# 農産加工に取り組む方は要チェック！！～食品衛生法の改正～

「食品衛生法」は飲食による健康被害の発生を防止するための法律です。令和3年6月1日から、改正された食品衛生法が施行されました。

法改正に伴い、営業許可制度の見直し、営業届出制度が創設されました。

<注意点>

- ・6月1日以降に許可の有効期間が満了となる施設 → 「更新」でなく「新規」の申請
- ・これまで県条例の製造業（漬物等）の許可施設 → 新たに法に基づく「許可」が必要
- ・これまで県規定による製造業等の届出施設 → 新たに法に基づく「届出」が必要
- ・**原則全ての許可・届出施設に食品衛生責任者の設置が必要**

食品衛生責任者になるためには、茨城県食品衛生協会の食品衛生責任者養成講習会の受講が必要です（調理師等の資格を持っている方は免除されます）。

（受講料：10,000円 日時：茨城県食品衛生協会のホームページ等でご確認ください。）

現在農産加工に取り組んでいる方、今後新たにに取り組む方は、自分の加工品がどの営業許可に該当するか、加工施設が新しい施設基準を満たしているかをご確認ください。詳細は管轄保健所にご相談ください。

<問い合わせ先>

筑西保健所（管轄：結城市、八千代町）	TEL：0296-24-3913
つくば保健所（管轄：常総市）	TEL：029-851-9295



紙面版

## 農業学園 ～病気の原因となる微生物の特徴～

かび（菌）と細菌、ウイルスの違いって何？

簡単にまとめてみました！病気を見分ける参考にしてください！

	かび（菌）	細菌	ウイルス
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カビやカビの集合体（菌核）が見える場合がある。</li> <li>・植物の病気70～80%を占める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水浸状の斑点や斑点周辺が黄色くなる。</li> <li>・症状が進むと腐る。</li> <li>・悪臭がする場合もある。</li> </ul>	生長点（新しい葉）付近にモザイク症状や黄化などが発生。えそ症状が発生するものもある。
農薬	カビの種類、栽培品目によるが、農薬の種類は多い。	限られている。（菌に比べて少ない）	ない。
主な伝染方法	土壌や雨、風による孢子の飛散により媒介。種子により感染するものもある。	土壌や雨、風により媒介される。種子、苗による感染も起きる。	種苗、昆虫などで媒介。ウイルス病の植物を切ったハサミなどによる媒介。

### 今後注意が必要な病気（施設）

□灰色かび病（菌） 品目：トマト、キュウリ等

- ・薬剤による防除を徹底するとともに、罹病部はハウス外へ持ち出す。
- ・多湿条件で発生しやすいため、暖房や換気等を利用してハウス内湿度を下げる。また、早朝～昼にかけての急激な温度の上昇は植物表面が結露して、病気が発生しやすくなるため注意する。



🍅 🍆 **農薬の適正使用を心掛けましょう!!** 🍌 🍅